

表 令和7年1月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、入山規制)	解説情報 第1～9号	3日、6日、10日、13日、17日、20日、24日、27日、31日 16時00分	活発な噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石、火映の状況。昭和火口では噴火及び火映は観測されず。現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放出量は2300～3200[t/日]（6日、14日、20日）で非常に多い。火山性地震、微動の発生状況。GNSS連続観測では、島内の基線で2024年1月頃から山体収縮のわずかな縮みがみられる。姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では長期にわたり地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる。姶良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。
		降灰報（速報）	23日 03:05, 25日 19:01, 30日 20:31	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報（詳細）	23日 03:18, 25日 19:10, 30日 20:39, 21:02, 21:43	噴火発生から6時間先まで（1時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第1～5号	3日、10日、17日、24日、31日 16時00分	傾斜計、ひずみ計、GNSS連続観測で、2024年2月頃から山体深部の膨張を示す変動を観測。岩手山周辺の地震活動に大きな変化は認められない。山頂付近の火山性地震は2024年12月下旬から1月上旬にかけて少ない状態で推移し、11日頃から再び発生頻度がやや高まっているが26日以降は観測されていない。黒倉山付近の微小な火山性地震は少ない状態。西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第1～9号	3日、6日、10日、13日、17日、20日、24日、27日、31日 16時00分	火山性地震は4月中旬以降増加した状態。3月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は5月以降は停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は200～500[t/日]（6、16、21、28日）、2023年3月以前より多い。引き続き、火口から概ね2kmに影響する噴火の可能性がある。
御嶽山	噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)	解説情報 第1～2号	3日、10日 16時00分	2024年12月中旬以降、山頂付近で微小な火山性地震の発生頻度がやや高い状態。火山性微動はない。傾斜計やGNSS連続観測では関連の地殻変動は認められない。今後の活動の推移に留意。
	火口周辺警報	3日、16日 22時00分	山頂付近で火山性地震が増加している。今後、地獄谷火口から概ね1kmの範囲に影響する噴火の可能性がある。	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第3～20号	16日 22時15分 17～21日 16時00分 21日 16時40分 19時50分 22～31日 16時00分	12月中旬以降、山頂付近で微小な火山性地震の頻度がやや高い状態で、16日6時頃からさらに増加し、その後もやや多い。21日に火山性微動を伴う山頂方向が隆起する地殻変動が発生し、山頂付近を震源とする火山性地震も増加。その後は次第に地震は減少。地獄谷火口内的一部噴気孔で噴気活動が再開したが、全体として噴気活動に大きな変化はない。傾斜計及びGNSS連続観測では、22以降火山活動による地殻変動は認められない。火山活動が高まっており、地獄谷火口から概ね1kmの範囲に影響する噴火の可能性がある。

## 令和7年1月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第1～5号	3日、10日、17日、24日、31日 16時00分	2024年10月下旬頃から火口直下の火山性地震が増減を繰り返し、前10日間の地震回数は多い状態で経過。また7～8日、20～22日、26日～29日に一時的に増加。監視カメラでは火口の噴煙及び周辺の地熱域に特段の変化はない。GNSS連続観測では、2024年11月頃から新燃岳付近の地下の膨張と考えられる基線のわずかな伸びが認められる。霧島山深部の膨張を示す変化はない。火口から2kmの範囲に影響する噴火の可能性がある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第1～4号	6日、13日、20日、27日 16時00分	火山性地震は少ない状態。火山性微動はなし。GNSS連続観測では、山体の膨張を示す変化はない。長期的には熱活動や噴煙活動が高まった状態が続き、火口周辺に影響する噴火の可能性がある。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第1～5号	3日、10日、17日、24日、31日 16時00分	古岳火口付近浅部の火山性地震はやや多い状態。14～16日及び20～22日の現地調査では、古岳火口周辺及び新岳火口西側割れ目付近の地熱域に特段の変化はなく、古岳火口で火口縁をわずかに越える白色の噴煙を観測した。GNSS連続観測では2023年11月以降、山体の膨張を示す変動は認められない。新岳火口及び古岳火口の周辺に影響する程度の噴火の可能性がある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)	解説情報 第1～4号	6日、13日、20日、27日 16時00分	御岳火口で噴火活動が継続。爆発、噴煙、火映の状況。大きな噴石の飛散。集落（火口から南南西3.5km）で鳴動と降灰あり。島の西側で発生と推定される火山性地震は4日からやや増加し、5日に島内で震度1を1回観測し、その後は少ない。火山性微動は主に噴火に伴って発生。GNSS連続観測では、島の西側深部のマグマ蓄積量増加と推定される変動はない。長期に噴火活動が継続し御岳火口周辺では大きな噴石が飛散する可能性がある。
		降灰予報（速報）	（今期間発表なし）	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報（詳細）	（今期間発表なし）	噴火発生から6時間先まで（1時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 岩手山、浅間山、御嶽山、霧島山（新燃岳）、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。御嶽山では、16日23時に発表を開始した。